

ICTクラウド活用で急性心筋梗塞などの救命率をUP！（福井大学、金沢大学）

クラウド救急医療連携システムで実現する仮想医療圏の広域連携

（ICT医療普及促進プロジェクト）

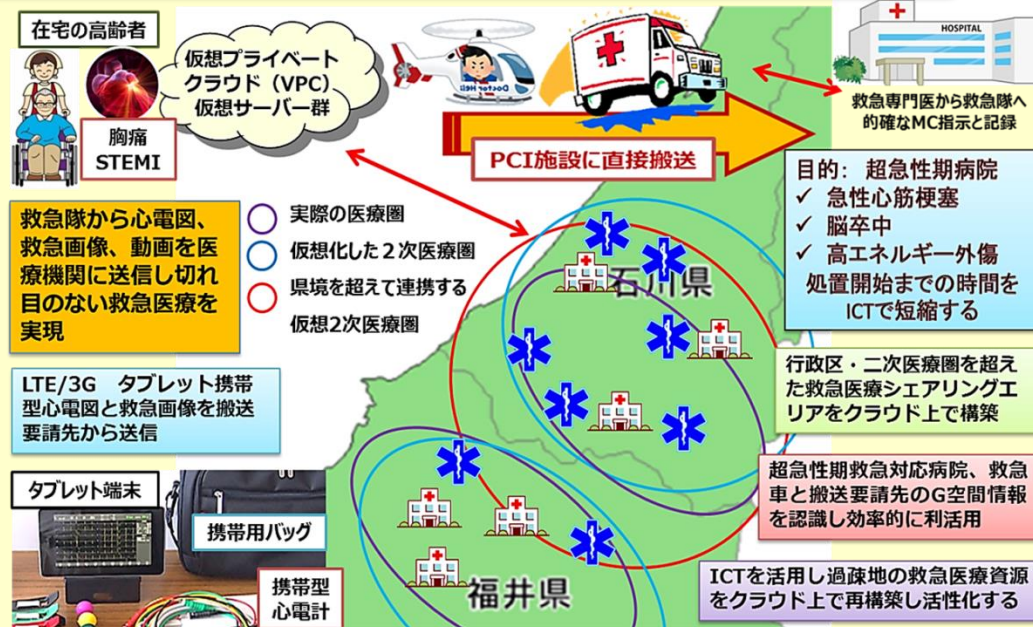
ST上昇型急性心筋梗塞（STEMI）では、発症後120分以内の再灌流療法が生命予後の改善に重要

救急搬送の現場から携帯型12誘導心電計を使いクラウドに心電図と救急画像を送信

緊急心臓カテーテル治療が可能な病院で心電図を受信するシステムを開発し運用

搬送前にST上昇型急性心筋梗塞の確定診断が可能になり、搬送中に手術の準備が可能

- ◆ 病院到着後、90分以内に治療を開始
- ◆ 同一システムを福井県と石川県で実現



従来の1/6の費用で県境を超えた広域連携を実現し、超急性期医療に活用

- ◆ 12誘導心電図と救急画像をクラウド上で広域連携するシステムを運用
- ◆ 心電図、画像伝送にかかる費用一日100円以下
- ◆ 治療開始が1時間短縮できると、1年後の死亡率が1.6%減
- ◆ 入院期間も短縮へ！

	利用件数	緊急処置人数	導入コスト	PCI治療開始時間	医学的信頼度
導入前	0	0	約300万円	約150分	C
導入後	253	15	50万円	<90分	AA

急性心筋梗塞発症による重篤化対策と医療費を低減

救急医療をICTクラウドで結びつけた全国的な地域医療連携システムの構築を提言